

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	社会福祉法人端山園 大山崎さくらの里保育園	施設 種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

令和 5 年 2 月 8 日

総 評	<p>大山崎さくらの里保育園は平成31年4月に保育園として開設し、園周辺は自然に囲まれ、団地と高齢者住宅の間に位置し、園の向かいには小学校が立地し子育て家庭が多い地域にあります。</p> <p>「一人ひとりの子どもの育ちや保護者の子育てを支え、子どもと子どもに優しい地域を作る」という運営理念のもと、保育目標である「望ましい環境を整え、沢山の実体験で豊かな感性と生きる力」を育てるべく、職員共通理解のもと子ども一人一人への関わりを大切にし、一人一人の子どもが安心して主体的に遊べる環境を整え保育に努めています。</p> <p>乳児には緩やかな育児担当制を導入し、一人一人ゆっくりと、愛着と信頼につながるよう優しく関わり、保護者との意思疎通や家庭との連携を図りながら、子どものリズムに合わせ、保育を実践しています。</p> <p>幼児クラス(3,4,5歳児)は日々異年齢で過ごす縦割り保育により、きょうだいのような関係で、年長児への憧れや年少児への優しさが育つよう目指しています。コロナ禍の現在は年齢別保育を行い、各年齢共それぞれ自分で選ぶ「選択遊び」をしています。</p> <p>保護者には保育の取り組みや子どもの様子を日々動画発信し、子どもの発達や遊びの大切さを伝えています。また、異年齢交流やアクティブラーニング(主体的・対話的な学び)を園外保育で実現し、プログラミング学習・体育・情操教育・絵画・造形等バランス良く実践し、本物の体験の大切さも合わせて伝えています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人の学習・研修の機会が保障され、園独自のジョブカード(保育所用仕様に変更)をキャリア支援、人材育成、自己評価等職員一人一人の目標管理シートとして活用し、目標達成に向けて取り組んでいます。なお年度末には面接を行うなど目標達成度の確認を行っています。</li> <li>園の機能を地域に還元する取り組みとして、子ども子育て会議などを通して関係機関と情報を共有し、園庭開放、一時保育、育児相談、こざくら広場等地域の育児力の向上を図ると共に子育て家庭を支援しています。また地域で行われる「円団祭り」に園の建物の一部を提供し、子ども向けの催し物を出店するなど交流をはかっています。</li> <li>食事は、温かいものは温かく冷たいものは冷たく提供することを大切にし、幼児のご飯は保育室で炊いています。八幡市にある田畑で地元の方の協力のもと、お米と野菜を作り、子どもが収穫しクッキングをするなど、食に対する興味が広がるよう取り組んでいます。</li> </ul>

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・単年度の事業計画は策定されていますが、3～5年を見据えた中・長期計画は策定されていません。中・長期を見据えた計画を、具体的な数値や収支目標を定め、策定されるとなお良いでしょう。</li><li>・実習生の受入については、実習内容全般を計画的に学べるような園独自のプログラムを策定し、指導する職員の水準をより高めるため、指導者に対する研修を実施されるとなお良いでしょう。</li><li>・子どものプライバシー保護などの権利擁護については、「子どものプライバシー保護」「個人情報保護に関する規程」「虐待防止マニュアル」「虐待チェックシート」を整備し、職員への教育を行っていますが、「虐待防止に係る規程」が策定されていません。規程を策定し職員に周知徹底されるとなお良いでしょう。</li></ul>
---------------------------	--

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

## 【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	社会福祉法人端山園 大山崎さくらの里保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	令和5年2月8日

**I 福祉サービスの基本方針と組織**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]

1: 運営理念・保育方針・目標はホームページ、入園のご案内などに明文化し、職員には職員会議で全体計画にも記載し周知に努めています。保護者には入園説明会にて「入園のご案内」(重要事項説明書)で説明しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	a

[自由記述欄]

2: 園長は地域の子ども子育て会議のメンバーの一員で地域の子育て会議に参加し、地域の保育ニーズの把握、町の人口動態など把握分析に取り組んでいます。

3: 法人の理事会で経営課題を分析し、具体的な課題や問題点を分析し、改善に向けて取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが行われ、職員が理解している。	a	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	b

[自由記述欄]

4. 5: 単年度の事業計画は策定されていますが、3～5年を見据えた中・長期計画は策定されていません。中・長期を見据えた計画を、具体的な数値や収支目標を定め、策定されるとなおいでしょう。

6. 7: 実施した事業計画は見直しを行っています。事業計画中的子どもや保護者に関する内容を分かり易く説明した資料を作成し、保護者に配布し周知するとなおいでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a

[自由記述欄]

8: 保育の質の向上に向けて、職員間で保育の内容や行事の見直しを行うと共に月間指導計画の振り返り、評価反省を行い年2回園全体として評価反省に務めています。

9: 自己評価の結果から明確になった課題について、協議、文章化し課題について職員間で共有し改善策を明確にし園全体で取り組んでいます。

**II 組織の運営管理**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	b
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

10:園長は自らの役割と責任を職員会議で明確にしています。今後は、職務分担表、不在時の職務権限委任も明確にし、職員に周知するとより良いでしょう。

12.13:園長は職員会議、研修報告会議に参加、保育現場に入り助言をし職員と改善点を話し合い、保育の質の課題を把握し改善に向けてキャリアパスの構築を図っています。また、短時間勤務の職員を多数雇用し働き易い環境を整備し、ICTを工夫し業務の生産性の向上に取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	b	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

14:組織を適切に機能させるため、人材確保に就職フェアなどに参加したり、ホームページに募集ページを載せて人材確保に取り組んでいます。また、短時間勤務の職員を多数雇用して人員体制を整備し、働きやすい環境を整えています。

16:職員の心身の健康と安全を心がけ、職員との個別面談を通して就業状況や意見、意向を把握し、ワークライフバランスを考慮し短時間勤務・有給休暇・時間外労働の削減など具体的な改善策を構築し、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	b
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b

[自由記述欄]

17:職員一人一人の学習・研修の機会が保障され、園独自のジョブカード(保育所用仕様に変更)をキャリア支援、人材育成、自己評価等職員一人一人の目標管理シートとして活用し、目標達成に向けて取り組んでいます。なお年度末には面接を行うなど目標達成度の確認を行っています。

18.19:研修は希望すれば受講でき、研修受講後は職員会議で報告し発表できる場も設けていますが、研修に関する基本方針や、研修計画が策定されていません。今後は策定された教育・研修計画に基づき、実施されるとな良いでしょう。

20:実習生受入マニュアルを策定し積極的に受け入れ取り組んでいます。今後は実習内容全般を計画的に学べるような園独自のプログラムを策定し、指導する職員の水準をより高めるため、指導者に対する研修を実施されるとな良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	b
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>21：ホームページには運営理念や方針保育内容が公開されており、だれでも閲覧できるように情報公開しています。地域に向けては園の掲示板に地域子育てセンター事業の「こざくらひろば」便りや、親子体操、子育てのワンポイントアドバイス等活動の情報を発信しています。今後は苦情・相談の体制や内容・地域の福祉向上のための取組の実施状況について公表されるとなお良いでしょう。</p> <p>22：経理規程に基づき会計士より毎月監査を受けています。今後は法人のスケールメリットを利用し内部監査を定期的に行うとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	b
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	a	a
		27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a
[自由記述欄]					
<p>23：開設2年目でコロナ禍に突入し、地域の人々との交流の輪を広げるまでに至ってはいませんが、地域の子育て支援として一時保育や園庭開放、園の掲示板に子育て情報を発信しています。今後はコロナ禍の収束を見据えて地域の行事、高齢者との交流や地域の人々と子どもとの交流の機会を設けるよう取り組まれるとより良いでしょう。</p> <p>25：子どもにより良い保育を提供するため、地域の町の福祉事務所、児童相談所、保健所などの関係機関と連携し情報を共有して職員に周知しています。今後は他の関係機関も含めた分かり易いリストを作成掲示し、保護者にも周知すると良いでしょう。</p> <p>26.27：園の機能を地域に還元する取り組みとして、子ども子育て会議などを通して関係機関と情報を共有し、園庭開放、一時保育、育児相談、こざくら広場等地域の育児力の向上を図ると共に子育て家庭を支援しています。また地域で行われる「円団祭り」に園の建物の一部を提供し、子ども向けの催し物を出店するなど交流をはかっています。</p>					

**Ⅲ 適切な福祉サービスの実施**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	b
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	b

**[自由記述欄]**

28：子どもを尊重する姿勢については、「理念」「保育目標」「方針」に謳われており、ホームページや入園のご案内等で保護者や地域社会へ周知を図っています。「倫理綱領」「規程」を活用し、職員会議やミーティングで職員が理解し実践できるよう取り組んでいます。

29：子どものプライバシー保護などの権利擁護については、「子どものプライバシー保護」「個人情報保護に関する規程」「虐待防止マニュアル」「虐待チェックシート」を整備し職員への教育を行っていますが、「虐待防止に係る規程」が策定されていません。規程を策定し職員に周知徹底されるとなおいでしょう。

30：園の「ご入園のご案内」には、必要事項が分かり易く丁寧に記載され見学者には個別に丁寧な説明をしています。今後は作成時期を明示し新鮮な情報を保護者に提供されるとなおいでしょう。

31.32.：保育所などの変更・転園にあたっては、保育の継続性に配慮した対応を行えるよう担当者や窓口を定めています。今後は引継ぎ文書様式を作成し、保育の継続性について、手順などを整え進めていくとなおいでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

**[自由記述欄]**

33.34：苦情解決の仕組みが整備され、苦情解決責任者・受付者・第三者委員等も重要事項説明書に記載し、「苦情・ご意見受付簿・報告書」が記録され園の玄関付近に閲覧できるよう公表しています。また意見箱や相談窓口を設置し、保護者が意見や相談を述べやすい環境を整備するなど取り組んでいます。

35：相談・意見に対し、担任または主任がその日に必ずコンタクトを取ることを基本とし、職員に伝達すべき事項は必ず直近のミーティング等で伝達を図るなど迅速な対応に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	b

**[自由記述欄]**

36：ヒヤリハット、苦情対応、感染症対応、交通事故、不法侵入対策などは「安全対策マニュアル」において網羅されています。責任者を明確にし、リスクマネジメント委員会を設置する等体制を整備しています。事故発生時の対応と安全確保についても、マニュアルで責任と手順を明確にし、それに基づき職員が取り組み、見直しにも努めています。

37：感染症対応は、「安全対策マニュアル」の中に盛り込まれ、更に「感染症防止マニュアル」が整備されています。看護師を中心に適宜、予防や安全確保に関する研修会を開催し、「保健だより」やSNSで保護者への情報提供に努めています。

38：「危機管理マニュアル」を整備し、災害対応訓練も実施しています。また備蓄リストを作成し、内容、期限も把握し、子どもの安全確保のための取り組みを行っています。

39：不審者対応マニュアルを整備し訓練も行っていますが、見直しは行っていません。今後は警察連携のもと職員研修、訓練を行いマニュアルを見直しされるとなおいでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目		評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されて いる。	a	a
		41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立してい る。	b	a
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
		43	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	b
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間 で共有化されている。	a	a
		45	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a
[自由記述欄]						
<p>40. 41：保育について標準的な実施方法に関しては子どもの尊重、プライバシー保護や権利擁護に係る姿勢が文書化され職員に配布されています。ベテランの職員の助力を得ながら研修を行っています。実施方法の検証・見直しは副主任・主任が、職員や保護者の意見も検討し職員会議で話し合い、月毎に見直し、年間指導計画の見直しにも取り組んでいます。</p> <p>42. 43：入園時のアセスメントから特に個別指導計画の必要な子どもに関しては子どもの主体性を生かした日案、週月案、年間指導計画を作成しています。今後は、療育施設との情報交換・情報共有し、様々な職種の関係職員、関係機関の職員や保護者の意向を踏まえ、計画策定についての手順を明文化して実施するとお良いでしょう。</p> <p>44. 45：子どもに関する保育の実施状況の記録については、個別指導計画・日案・週月案・年間指導計画等を作成しています。子どもの発達状況を年齢ごとに統一した様式に記録し、職員会議等で情報を共有し、記録の管理については管理規定で定め個人情報保護規定などを理解し、遵守するよう努めています。</p>						



**A-1 保育内容**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	b	b
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	b
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

46: 保育の方針・目標等に基づき、子どもの心身の発達や家庭の実態に応じて保育に関わる職員の参画により全体的な計画を作成しています。さらに地域の実態などを考慮して編成できるとなおります。

47: 保育室に湿度・温度計・加温器が置かれていて、室温・湿度・換気などに配慮し、清潔で心地良い環境を保つように努力しています。

48: 保育室にLaQ(ブロック)・ままごと・パズル等が置いてあり、子どもが常に自分で遊びを選び、楽しんでいます。またアクティブラーニング(主体的・対話的な遊び)を実現できるように取り組んでいますが、指導計画や記録に反映できるとなおります。

49: ランチルームやお昼寝専用の部屋はありませんが、保育室を区切って食事や睡眠のスペースを作っており、廊下の横にハンモックのある小さいスペースの小部屋が2か所あり、子どもがくつろいだり落ち着ける場所を整備しています。

50: 天気のよい日はなるべく散歩に出かけて、その中で、地域の人と接する機会や自然と触れ合う機会を作るよう配慮しています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	b

[自由記述欄]

51.52: 乳児は緩やかな育児担当制を取り入れて情緒の安定を保つよう配慮しています。また、連絡帳やブログで子どもの様子を伝えたり、メールで感染症の流行を伝えたり、家庭との連携を密にするよう努めています。

53: 5歳児のお別れ遠足は、子どもたちがどこに行きたいかをみんなで話し合っ決めて(昨年は新幹線に乗って姫路城に行きました)に取り組み、今年も思い思いの意見が掲示されるなど、子どもたちが自分の思いをしっかり伝えることができるよう、日々努めています。

55: 夕方週1回、4~5歳児は、「サッカー」「料理クラブ」など、子どもが選んで遊ぶ時間(チャレンジ活動)があります。保育室の環境、保育の内容など配慮されていますが、指導計画等に長時間保育についての位置づけが確認できませんでしたので、今後取り組まれるとなおります。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	b
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

**[自由記述欄]**

57.58：SIDS予防に0歳児は5分、1歳児は10分に1回、子どもの様子を確認し記録しています。また、保健だよりで情報を保護者に提供しています。子どもは健康管理は常勤の看護師と保育士等の職員が連携を取りながら行っていますが、健康管理に関するマニュアルが整備されていません。今後は、行っていることをマニュアル化すると良いでしょう。

59：食物アレルギーの子どもには医師の指示書に基づいてアレルギー対応食をトレーにのせて提供し、誤食防止に努めています。また、宗教上の理由で食材を制限されている子どもにも細やかに対応しています。

60：ひなまつりのちらしずし、七草がゆ、白みその雑煮等地域の食文化や行事食など季節感のある献立になるよう工夫しています。

61：食事は、温かいものは温かく冷たいものは冷たく提供することを大切に、幼児のご飯は保育室で炊いています。八幡市にある田畑で地元の方の協力のもと、お米と野菜を作り、子どもが収穫しクッキングをするなど、食に対する興味が広がるよう取り組んでいます。

## A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	b
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	b

**[自由記述欄]**

63：連絡ノートやクラスだよりで日々の保育の様子を伝え、また、ZOOMで個人懇談、クラス懇談を通して、子育て相談に応じたり、子育て支援の情報を提供するよう努めています。

64：虐待については、マニュアルを整備し、関係機関と連携を取りながら虐待の早期発見や予防に職員全員が努めています。虐待に関する規程が確認できませんでした。今後は虐待に関する規程を整備されると良いでしょう。

65：自己評価を年2回行い保育実践の改善や専門性の向上に努めています。今後は、一人一人の学びにとどまらず、互いに分かち合い、園全体の保育の改善や専門性の向上につながるよう取り組まれますと、なお良いでしょう。